

2006 それぞれのさくら道走り旅 260km

(2006年4月29日～5月1日)

ゼッケンNo. 18 山猫@さすらいランナー

はじめに

今年もまたさくら道の季節がやって来た。さくら道ウルトラマラソンが終了してもう3年になるが、GWが近づくとさくら道が恋しくなってしまう。今年のGWはどうするか、何も考えないまま2月になろうとしていた。巨人軍団のS藤親分が今年も「それぞれのさくら道」をされるのは知っていたので、H野さんにメールするとすぐに返事と案内をメールして下さった。案内の頭には以下の文面があった。

太平洋と日本海を結ぶ270km道を桜街道にしようと思つた男がいた。ダム工事で水没する山村の樹齢450年といわれる桜の古木が移植され見事に蘇った。その生命力に感動したからだ。男は名古屋と金沢を往復するバスの車掌だった。男は少ない休暇を使いバスの走る道沿いに黙々と桜の苗木を植え続けた。2000本も植えただろうか。男は病に倒れ47才の生涯を終えた。その人は、佐藤良二さんです。

2001年、初めてさくら道に参加した時は1月、2月に2回ひとりで徹夜走をして、夜中に慣れる練習をしたが、今年2月には大村湾も走っているし、今は経験からそのような練習をしなくても走れるとは思ふ。3月にS藤親分に参加の意向を電話で連絡していながら、いろいろあり、結局4月10日に申込みをした。すると4月21日には立派なゼッケンが届いた。今年は休日に移動して、翌日から走るというパターンではなく、仕事を終えた足で名古屋に向う慌ただしいスケジュールだが、直前は日に日に気持ちが高ぶり、同時に事故、怪我のないことを祈るようになっていた。



前日

28日金曜日は月末最終日、何も起こらなければ良いがと不吉な予感を感じつつ出勤すると案の定、血管が破裂しそうな1日になってしまった。明日からはさくら道という試練が待っているというのに、よりによってその前日に何ということだ。後ろの時間が決まっているので、焦りながら何とか午後6時前に仕事を切り上げられた。5時には切り上げてと思っていたので1時間オーバー、何とか許容範囲で収まった。明日からの3日間を試練と思うか、修行と思うかで気持ちは変わる。修行と思えば気持ちもほぐれる。

2時間ほど普通電車に乗り、8時40分に名古屋に着いた。米原から名古屋直通に乗ると乗り換えがないので都合が良い。車内はさほど混んでいなかったのので、スーパーで買った寿司パックも食べる事ができた。名古屋に着いてからは高島屋13階にある「江南」というラーメン屋に行った。名古屋のけんちゃんに紹介して貰って、2003さくら道前日にS谷さんと食べに行った店で美味しかった思い出があった。当時と店の雰囲気は変わっていた。この13階は行列のできている店が多かったが、江南はすんなり入れた。しかし、店内はほぼ満席。スタミナを付けようとニラとニンニク入りラーメンを注文、焼き飯、餃子、生ビールで2回目の夕食。お腹いっぱいになった。味の方はというと当時と全く変わっていて、コクのないスープでもうひとつだった。



ネットで申し込んだ「第3スターナゴヤ」という太閤口側のホテルで宿泊した。チェックインは10時前になり、風呂に入り、何やかんやしているうちに時間がどんどん過ぎた。室内は暖房状態で窓を開けて寝たが、それでも夜中暑くて汗をかいた。そして、緊張感からか膝に違和感が出てきた。何ということだ。ベッドに横になるとなかなか寝付けなかった。そして、緊張感が更に高まり、過去の記憶が走馬灯のように蘇る。結局、眠ったのは0時半頃だったが、夜中何回か目が覚めた。

当日

朝5時、アラームが鳴る前に目覚めた。夜中は室内が暑かったのでシャワーで汗を落とし、前日買った弁当を食べ、荷物をチェック。デイパック内にはウインドブレーカー、長袖シャツ、ロングタイツ、手袋、LEDライト2個、痛み止めイブA、胃薬ザッツ、ガスター20、エビオス、食塩、ティッシュ、予備の単4電池3個、財布などを入れた。

6時前にホテルを出て、名古屋駅を横断、桜門通口に出る。東横イン名古屋駅桜通口の本館は過去のさくら道

で泊まっていたのでわかるが、集合場所である東横イン名古屋駅桜通口新館は位置関係がわかりにくいので、地図を見ながら行った。歩いているとワゴン車の男性から「さくら道ですか？」と聞かれ「はい」と言って、よく顔を見るとW部さんだった。「今、マツちゃんと Wanda さんをJR東海バス名古屋営業所まで送って来た」と話された。東横イン新館に到着すると荷物をルネスに運んで下さる群馬のS藤さんとロビーで対面。S藤さんは確か2002年の大会前に白川郷以降の荒れた長いトンネル群の歩道を走るランナーのためにスコップで清掃して下さったほどの方だ。そして、自らも走られている。

少しすると続々参加者、サポーター、応援者が集まられて来た。意識しなくても、自然に握手する手が伸びる。オープン参加のW穂井さん、



A井さん、2003ネイチャーラン、リレー方式で走られたココススポーツクラブのI原さんの姿もあった。サポーターには世界の関家さん、K坂さん、さくら道呼び掛け人の酒井さん、さくら道が縁で結婚されたS藤さんの奥さんなど、応援は先週ネイチャーランを完走された masa さんとK田さん、それにW部さん、A井さんの奥さん、横浜中央走友会のY田さんなどが駆け付けて下さった。関家さんはノートパソコン持参でランナーのために掲示板で実況中継して下さるとのこと。全員で集合写真を撮り、7時にのんびりスタート。上は半袖、下はランパン、ウルトラシマントLSRというラン姿、ソックスの指先は穴が開いているものしかなかったので、そのまま使用した。最近は本当にいい加減になった。それで走っても変わらないのは対応力が増したことになると思う。

それぞれのさくら道スタート

東横イン新館(スタート)

4月29日 7時00分

東横イン名古屋駅桜通口新館から、大名古屋ビルの前を通り、名古屋駅前から通常のさくら道ウルトラマラソンコースに入って行った。JR東海バス名古屋営業所スタートと比べると約4km距離が短くなる。名古屋駅前から桜通りを東に進むと歩道橋を渡るところで一瞬躊躇した。左折か、直進か迷った。少人数なのでそういうところも出てくる。土曜早朝の名古屋市内、人影は少ない。桜通り大津で左折するが、

ここにはK田さんが黒糖菓子とビールで小エイドして下さっていた。さくら道の時もここで応援され、いつもの陽気でとぼけたお喋りをされていた。久屋大通りを北に向かうと名古屋城を若干もじったような愛知県庁、名古屋市役所が右手に見える。名城公園前ではY田さんの奥さんのエイドがあった。お菓子と水を頂く。この辺りがネイチャーランのスタート地点だと思う。城北橋で左折して道なりに進むと名古屋城のお堀が見え、それに沿って歩道を進む。金の鯨で有名な名古屋城天守閣はやや遠くに見えていた。写真を撮るのに良いアングルが見つからない。名古屋城の周りは結構走っている人、歩いている人の姿もあった。



幅下橋(6.6km)で右折して国道22号線を北西に進み、すぐ下を見ると「名城一宮の渡し」と書かれた

派手な観光船が水上にあった。ボディは赤、屋根のシートは紫地で「家康」と書かれていた。前後に金の鯨、派手好きな名古屋らしい光景だ。ここからの道路は広く、歩道もタイルのところが多い。車の量はさほど多くない。2kmほど先でまた歩道橋を渡る。この辺りはS籐親分、N田さん、Y崎さん、Y田さんの5人ぐらいの集団だった。S籐親分の携帯に京都のU田さんから電話が掛かり、激励と来年は参加したいとの意向を話されたとのこと。U田さんは昨年、H瀬さんと走られた。Y田さんと2001年甲州街道では前後して都内まで走ったこと、ご主人が日本橋まで迎えに来られたこと、さくら道でも道中で何度か前後して走ったことなどを話したが、Y田さんは覚えていないと言われていた。私はいつも道中の様子を書くので覚えているのだと思う。空は曇っており、暑くもなく、寒くもない丁度最適な走り日和だ。どちらかというと風はややヒンヤリしていた。西枇杷島の小さな川に掛かる橋を走っている最中に大きく揺れて気持ち悪かった。ここは新川大橋だと思うが、いつも普通の橋と違って、特別な揺れがある。「いつものところや」と思いながら進む。この橋は集団で揺れるのではなく、歩いていても揺れると思う。ここから北北西に木曾川橋まではほとんど真っ直ぐに走らなければならない。キリンビール名古屋工場を左手に見て進む。10km付近では関家さん、K坂さんのエイドがあった。



東名阪高架下にある清洲の御園歩道橋(13.7km)を渡ってからは5人のグループから前が出る。K本さん、N宮さんに追いつく。N宮さんはスピードランナーだとK本さんは話されていた。この辺りの歩道は路面が良いとはいえない。車の量は先ほどとほとんど変わりなく、この時期としては少ないように思える。前にやや大きな交差点があるが、信号に表示がない。確か赤池だと思うが、その先にミニストップがあったので、赤池交差点(20.4km)だとわかった。この前後は道路が2車線拡張工事中で、歩道も4m幅くらいに拡張されようとしていた。3年前とは道路拡張で何となく雰囲気が変わっていた。名神高架下を潜り、少しするとやや暑く感じ始めた。時間の経過と共に暑くなるのは自然だろう。一宮市街地に入り、一宮裁判所が見えて来た。

一宮裁判所前(23.3km)

4月29日 9時40分



関家さん、K坂さん、masaさん、N瀬さん、K村さん達に迎えて頂く。一宮裁判所前にはさくら道270kmウルトラマラソン時に掲げられていた「太平洋と日本海を桜で結ぼう」の横断幕、距離表示があり、さくら道ウルトラ時代と変わりなく迎えてくれた。懐かしくもあり、嬉しくもある。実況中継用の関家さんのノートパソコンがテーブルの上に置かれていた。水を頂く。道路を横断するとロングタイツで走っている若者がいた。ペースが早かったので練習中なのかと思っているとオープン参加のコックススポーツクラブのI原さんだった。



その先で左折すると商店街があった。アーケード下には鯉のぼりがいっぱい吊り下げられていた。優雅だ。道なりに進んで尾張一宮駅前からまた北北西に進むと道路反対側から手に何かを持って、私に渡そうとしてくれる女性がいた。車の列が途切れず、なかなか横断できなかったの、道路を横断されるのを待った。クッキーと水を下さったのはコックススポーツクラブのサポートをされている女性だった。何か申し訳ない気持ちになった。

JR東海道線の上を渡る今伊勢跨線橋で海宝さんの餃子パーティーをはじめ、何度も会っている一宮のI田さんの姿があった。会釈ですれ違う。誰かと一緒に走ろうと思って待っているのだと思う。その先には東海北陸道高架下があった。左側に広大な「ダイナシティ(ジャスコ)」があり、10時半頃だというのに駐車場は90%近く埋まっていた。こういう場所は1日過ごせるので、人出が早いのか？。道路はそこそこ混んでいるが、渋滞というほどではない。その先の反対側車線に「すき家」があったので、これは良いタイミングと昼食を摂ることにした。牛丼で仕方ないかと思っていたら、ミニカレーがあったので、これは助かった。カレーライスランニング中でも喉に通やすいからだ。氷の入った冷たいお茶をたっぷり飲みながら、食べた。なかなか美味しかった。約15分休憩し、コース復帰すると後続ランナーが先行していた。オープン参加のA井さんに「どこまで行かれるのですか？」と聞くと「とりあえず白川郷を目指すが、行けるところまで」と話されていた。木曾川橋手前でワゴン車横の男性が「頑張





つて」と声を掛けて下さった。木曾川橋を渡るといつも横断幕が掲げられていたことを思い出す。いつも心に残る言葉を貰っていた。

その先の柳津東塚(33.0km)を右折、角には笠松ペットセンターがあり、子犬が檻の中に飼われていたので写真を撮る。Y田さんは「最近ではペットブームで犬の数も多いですね」と言われていた。11時を回ったところだ。少し行くとセルフのうどん屋「どんどん庵」前にS藤親分のデイパックと傘が置いてあった。I田さんが前



で誰かを待たれていて、Y田さんが来られたので、また一緒に走られたようだ。この辺りからは苦しくなっていた。しばらく行くと国道21号線高架下を潜る。右に進むと各務ヶ原で、ここには航空自衛隊で有名な各務ヶ原基地がある。中山道を走った時は確かこの辺りを横断して、東に進んだと思う。この付近からS藤Yーさんと前後、足はかなり重そうだった。左側に名鉄・加納駅があった。岐阜市は江戸時代、加納宿と呼ばれていた。電車の踏切が2カ所ほどあり、遮断機が降りると休めるので助かる。

金津町四の少し手前のスギ薬局でアミノ酸サプリメントを買う。レジが非常に手間取っていた。スギ薬局はどこへ行ってもレジ作業が手際良くできないのか？。金津町四で右折し、国道248号線を東に進む。道路左側を進まれるS藤Yーさんの足取りは更に重くなっていた。コンビニから出て来られたマツちゃんさんとWandaさんにばったり遭遇。6時にJR東海バス名古屋営業所をスタートし、さくら道にこだわって走っているとのこと。マツちゃんは2月末から1ヶ月間掛けてニュージーランドに走りに行かれていたので真っ黒だった。少しの間、並走する。左の団地の上に見える小さな山は新緑が綺麗だった。この辺り、すぐそこまで山が迫っていた。道路向こう側に「白山神社」があった。前に普通の鳥居、その後赤い鳥居が見える。白山から離れているが、この辺りでも白山神社があるのか？。道路左側を走っていた「名鉄美濃線」は電車が走っている気配がなく、線路に柵がしてある。廃線になったようだ。



日野南6(44.2km)を過ぎると緩い上りがある。マツちゃん&Wandaさんは前を走りながら上られたが、私は歩いた。少し陽が差し始め、太陽が真上にある分、だいぶ暑くなってきた。風もなくなっていた。さくら道の時でもこの辺りは辛いところで、バテ始める場所だ。岩田付近ではずっと歩いて休んだ。この辺りは賑やかで店が並んでいる。棚橋工業前を過ぎると前にN村さんの姿が見えた。N村さんは前半から飛ばされていたので、ややバテ気味のような。13時を回り、更に暑くなり始めた。サークルKでアイスクリームを買って、歩きながら食べる。この先、美濃までは暑い区間だ。この辺りの道路も5年前は歩道のないところもあったが、今は綺麗に整備され、歩道が続いていた。小屋名で左に進むと国道156号線となり、バイパスのようになっているが、さくら道は右にカーブして国道248号線を進まないといけな。ここに「百年公園」に通じる並木道があった。植えられているのは桜だろうか？。この先の歩道は凹凸があるので進みにくい。できる限り横断し、線路の左側の道路を走ろうとした。線路に掲げられた看板を見ると「名鉄美濃線は平成17年4月1日をもって廃線」と書かれていた。廃線になったのか、2年前の「ひとりさくら道」時はスタートの美濃まで行く際に乗って良かったと思った。東海北陸道高架下ではいつも通りエイドがあり、関家さん、K坂さん、A井さんの奥さんの姿があった。パイナップル、お菓子、水を頂いた。



栄町4丁目(55.5km)を左折し、美濃市役所に向かうが、結構長い区間だ。いつもと比べるとそれほど暑くなく、関に入ってからまた風が出てきたので走り出せた。車はかなり渋滞していた。喉が渇くのでサークルKで飲むバナナヨーグルトを買って飲んだ。飲んですぐにヨーグルトだけでなく、以前に飲んだ水分も吐いてしまった。これは早過ぎると思いながら、先を心配する。



コックススポーツクラブのサポートをされている男性から栄養ドリンクとチョコレートを頂く。栄養ドリンクは有り難い。東海環状自動車道高架下を潜った辺りでまた吐いた。最悪だ。力がどんどん抜けるようだ。この先のことを考えて、ガスター20とザッツを飲む。東海北陸道高架下を潜り、しばらく行くと今度はトイレに行きたくなった。運良くドラッグストアがあったので助かった。この間にはいろいろトラブルがあったが、走れる時は走るようにした。道路脇には花壇があり、色とりどりのチューリップやパンジーが咲いていた。

道端の花は良いものだ。

美濃市役所前(62.3km)

4月29日 15時02分

M川さんのエイドがあったので、ビール少しとチョコレートを受けた。時計を見ると2003さくら道と変わらぬペースで来ていた。これはちょっと早いようだ。泉町交差点で左折するが、その脇に「和紙とうだつのまち美濃市」と掲げられた大きな表示板があった。美濃のうだつは有名だ。うだつは裕福な家しか「うだつ」を造ることができなかったため、庶民の願望から「うだつを上げる、うだつが上がらない」の言葉が出てきたと言われる。これからは長良川沿いを北に進むことになる。この先、例年だと車が渋滞しているが、今年は全く渋滞していなかった。天気もうひとつの関係か？。洗濯屋横にある水道の冷水で顔を洗い、身体を冷やす。ここの冷水はいつものこと



ながら、有り難い。その先、路面温度は21℃を示していた。2003さくら道が25℃だったことを思うとさほど暑くないようだ。この気温なら、先ほど吐いた影響も出ないと思う。すぐ先の「みちくさ館」前ではN村さんの知り合いのO野さんがエイドを開いて下さっていた。「みちくさ館」はお食事処のようだ。パイナップルとチョコレート、水分を受けた。隣にいらした女性はみちくさ館の方だと思うが、話をするとランナーとのこと。ハーフやフルを走られているようだ。

このすぐ先で歩道が右側から、左側になるので道路を横断する。長良川沿いの道端にぼたん桜が綺麗に咲いていた。そのまま国道156号線に沿って進むと新立花橋が見えて来た。長良川を渡り、歩道のない立花トンネルを越えると州原橋が見える。例によって鯉のぼりが川幅いっぱいになり下り、今年は風があるので綺麗になびいていた。ここを通るといつも思い出すことがある。2001年初めてのさくら道、須原駅付近の道端に腰を降



ろして休憩していると小学生くらいの少年がりんごジュースを持って来て、手渡ししてくれたことを。あの少年はもう中学生くらいになっているのだろうか？。その後、急激に便を催した。横に民家はあるが、戸を開けるのはさすがに恐縮する。山に駆け上がろうにも線路に綱が張っており、邪魔で上れない。辛抱も限界と思った時、裏から横に回ると何と簡易トイレがあるではないか。何という幸運なんだ。走っている最中の便は急激にくることが多く、夜中なら良いのだが、昼は困ったものだ。その先の須原トンネルも短いとはいえ、歩道がない。気温は18℃を表示して



いた。上を見上げると東海北陸道の橋桁がそびえ立っていた。この先、こんなところを何度も潜ることになる。上空は青空に変わっていた。横を走っている長良川鉄道を見ながら進むと道の駅「美並」までの距離表示があり、歩道が広くなってくる。間もなく道の駅に到着だ。

道の駅「美並」木遊憩所(72.3km)には16時29分に到着。2003さくら道とほとんど同じペース。N村さんが先着されていた。夜叉ヶ池のW辺さんのエイドだ。A井さんの奥さん、masaさんも駆け付けてくれた。そして、ココススポーツクラブのサポートされていた女性はここで止めると言われていた。おにぎり2個、ビール、チョコレートなどを頂く。ご飯が食べられるのは幸せだ。15分ほどゆっくり休憩させて貰っているとK本さんが到着された。この先は歩道がないところがあるので、注意しながら進む。根村洞門手前で歩いていると自転車の子供が追い抜いて行った。上り坂で私が走り出すと子供は



は追いつかれまいと必死で後を見ながら、ペダルを漕いでいた。私も頑張るって走ると子供は凄い勢いでペダルを漕ぎ、下りになるとその姿は見えなくなった。そんなに私は怪しい人間なのか？。奇人、変人であることは周知の事実ながら、怪しい域にまでは達していないと思うのだが。更に進み、小学校の正面に綺麗な

パンジーの花壇があったので眺めていると小学生の女の子が来たので「綺麗ななあ〜」と言うと「これは私達が植えたんや」と応えてくれた。先ほどの小学生とはえらい違いだ。この辺りからは上りと下りが交互する。

下田橋を越えてからの長い下りで美並のパノラマが見えるようになっていた。間もなく郡上市美並庁舎(78.5km)前を通過。昼食を摂ってから7時間経ち、もう夕食を摂らないといけない時間だ。いざ食べようとする店がない。美並駅前付近はもつとあるかと思っていたが、以外にない。駅前の喫茶店のドアを開いたが、座って食べるような雰囲気ではなかったので出た。そして、もう走れなくなっていた。ひたすらに歩く。この先、国道沿いなので何とかなるだろう。夕食はやはり店で食べたいと思う。少し行くと美並は日本のど真ん中なので、その象徴となる「日本まん真ん中センター」



が右の高台に見えた。以前、このシンボルは美並庁舎より手前だと思い込んでいたが、実は先にあったことを初めて知った。思い込みは怖い。徐々にガス欠傾向が出てきた。トンネル内を進むのは危険なのでトンネル内を通らず、さくら道同様に長良川沿いの旧道を回った。他の皆さんは国道内を通られたようだ。その先の下りか



ら眼下を見下ろすと長良川の両サイドがパノラマのように思えた。東海北陸道高架、長良川鉄道橋桁が長良川を横断する姿がパノラマを引き立てる。長い下りで居眠り運転防止用フクロウの黄色い目が3基光っていた。



店はないのか、このままだと郡上八幡までないかもしれない。次第にあせりとなる。遠くに赤い建物が見えて来た。あれは確か、酒屋だったはず。一昨年はここで缶ビールを買った、そんなことを思いながら歩いていると赤い建物は酒屋ではなく、ラーメン屋だった。これは天の恵み、ラーメンが食べられるとは何と幸運なんだ。ラーメン「みなみ」という店に入ると店内は結構人が入っていた。18時過ぎ、ちょうど夕食時だ。塩を摂らないといけないと思い、塩ラーメンを注文。ラーメンが出てくるまでメールで近況報告する。ラーメンは麺の具合といい、出汁といい、なかなか美味しかった。たっぷり水分も補給して店を出ると徐々に薄暗くなり始めていた。



深戸駅前(82.6km)は18時38分に通過。駅の先で上は半袖から長袖に、下はロングタイツを重ね着した。LEDライトも出した。それほど寒くはないが、風が吹き始めるとこの先はどんどん寒くなるので早目に着替えた。次の名津佐トンネルも旧道を迂回した。ここの迂回は結構長く、薄暗い。そろそろ疲れも増し、筋肉も張ってきたのでイブAを飲んだ。食べた後なので効くだろう。上を見上げると東海北陸道は拡張工事中で、大きな四角い橋桁が新たに作られようとしていた。無駄な工事でないのだろうか？。この辺りで「郡上八幡」と書かれた格子の案内板があった。もうかなり暗くなっている。時々走りながらも歩きがほとんどになっていた。とりわけ明るい光を放つ「郡上八幡ホテル」が見えた。ドライブインに温泉もある施設だ。鯉のぼりが建物の前に吊してあった。S藤親分達はドラ



イブインに入られた模様。間もなく郡上八幡の中心部が近づいて来た。右に見えるお食事処の裏側にある桜がライトアップされていた。綺麗だったので見ようと思い、裏側に回ったが、柵がしてあって見ることはできなかった。民家の前に水舟があった。中山道の須原ではよく見掛けるものだが、この辺りでは珍しい。冷たい水で顔を洗い、口にもした。ここでひとりのランナーと一緒に。「この先、路肩が狭いので気を付けて下さい」と言って先に進む。左前方にオートレストランが見えたので、国道156号線から、右斜めに進み、郡上八幡駅前に向う。ここからは走り出した。

郡上八幡駅前(91.4km)

4月29日 20時02分

2003さくら道とあまり変わらないペースで来ている。暗いが駅に吊り下げられている「郡上おどり」と書かれた提灯の写真撮る。さほど暑くないのでダメージは少ないだろうと思う。旧道を進むと交差点に出て、そのまま真っ直ぐ国道156号線を進む。ここを右折すると飛騨の方に行けるようだ。この先にあるサークルK前では関家さん、K坂さんのエイドがあった。さくら道の頃、ここは地元喫茶店の美人ママ達のエイドがあった場所だ。豚汁、ヤクルト、せんべい、水分を頂く。温かい豚汁は有り難い。関家さんが「次の大和のエイドにはうどんがありますから」と言われたので楽しみだ。後続のK本さん、N宮さん、K合さん、そしてT下さんも到着。先ほど郡上八幡駅手前で抜かしたランナーが来ない。道を間違ったのではないかと気になった。この先の大和まで、左は長良川鉄道、その下は長良川、右は防護壁と歩道がなく、路肩の狭い区間が続くので気を付けないといけない。エネルギーもたっぷり補給できたので時々走りながらも、歩き中心で進んだ。足元に気を付けながら、真っ暗闇の中を行く。最初の東海北陸道高架を潜ったのは覚えていなかった。右側にある公衆トイレの外灯が明々と灯っていた。続いて2回目の東海北陸道高架を過ぎると家並みが見えて来た。間もなく大和の市街地だ。



JAおくみの大和南支店前(101.1km)には21時42分に到着。W辺さん、O野さんからラーメン、スープ、お菓子、水分を頂いた。夜の温かいラーメンは最高に嬉しい。ここには先週ネイチャーランを完走されたO川さんの姿もあった。最初、O川さんとはわからず、どこかで見たような方としか思えなかった。誰かひとり寝られていた。T下さん、K合さんも到着。この場所はさくら道の頃、H田よのさんのエイドだった。中学生くらいの女の子が夜遅いにも関わらず、一生懸命手伝っていたのを思い出す。2年前の交流会でお目に掛かっているが、今どうされているのだろうか。80歳を越えられているが、お元気だろうか、ふとそんなことを思った。この先、白鳥の東海北陸道高架下までは少し頑張って走る。徐々に気温も下がり始め、やや寒くなってきた。走り疲れで歩き出す。「日本土鈴館」ではガラス窓越しに大きな招き猫の写真撮る。



この先は国道ながら旧道のような雰囲気がある。白鳥の中心部が近くなって来た。油坂峠道路高架下を潜ると道路が一瞬広くなり、道なりに白鳥市街地へ向かう。長良川鉄道の跨線橋を越えると満開のボタン桜が外灯でライトアップされていた。いつもここに来ると佐藤良二さんのことを思い出す。桜の木に短冊があったので見ると「太平洋と日本海を桜でつなごう」と書かれていたが、パソコン文字で書かれていたのが残念だった。これは手書きでないと重みがないと思う。左折して奥美濃大橋を渡る手前でT下さんとK合さんに追いつかれた。顕彰碑は初参加の人ではわかりにくいのでT



下さんの後ろをK合さんが必死で付かれているように思えた。奥美濃大橋を渡った先の交差点で顕彰碑への道筋に矢印を誰かが路面に引いて下さっていた。上を見上げると油坂峠道路白鳥インターのロータリーが高くそびえ、威圧感させ感じる。公園の中から、一旦民宿「てんご」の前に出て、民家の間を顕彰碑への坂を3人で上って行った。てんごの前の広場は2年前のさくら道交流会で荘川桜の実生を植樹したところだ。K合さんに「どうしてこんな高台にあるのですか？」と聞かれ、「白鳥の町を見下ろせる場所ということで、この高台に顕彰碑は建てられていると聞いています」と応えた。

桜守佐藤良二君顕彰碑(112. 2km) 4月29日 23時55分

桜の木々の中にあるので気が付かずに通り過ぎてしまい、T下さんに呼び止められた。ライトアップされていないと顕彰碑はわかり辛いが、佐藤良二さんの顕彰碑なくてさくら道はない。暗いので写真は撮れない。折り返して上って来た道を下って行くとK本さんとすれ違った。この下りは3人で世間話をしながら歩いた。K合さんは2003さくら道に申し込んだが、落選したと話されていた。このK合さんは香峰さんと同じ仙台URCのオレンジランシャツを重ね着され、今は東京にお住まいだが、少し前までは仙台に住んでいたと話されていた。香峰さんを良くご存じのようだ。

民宿「さとう」前(113. 5km)で左折するとM川さんがエイドを開いて下さっていた。ビール、お菓子、お湯を頂く。時折、ポツリポツリ雨が落ち始めた。もう0時を回り、30日に変わっていた。ここからは再び国道156号線に戻り、少し進んだところにローソンが右側にあるので寄る。小さなチキンラーメンを買って、風避けできる場所で食べる。店に入っている間にマツちゃん&Wandaさんが到着。ラーメンを食べている間に先に行かれた。そのうち雨は強くなり出したが、温度、湿度共に高いので寒く感じなかった。暗闇の中、徐々に上っているのが余計に辛い。少し眠気も出始めた。暗闇の中とはいえ、所々に咲いている桜は満開だった。右側に道の駅「白鳥」がようやく見えた。ここは「白山長滝」という大きな看板がある。少し進むと左に長良川鉄道終点の北濃駅(119. 3km)が見えた。この先の右側にライトアップされた桜の木が何本かあった。雨の夜とはいえ綺麗だ。この時期に満開の桜を見られたのは初めてだと思う。気温は12℃まで下がっていた。

さくら道ウルトラの時はここから左に進んで旧道を進むが、徐々に遅れ気味なので旧道ではなく、そのまま国道を進むことにした。ここを左に行けば「ウイングヒルズ白鳥」に行ける。ここにはスキー場、ホテル、温泉もある。前にN村さんの姿が見えた。眠たくて前に進めないそう。国道を真っ直ぐに進むと旧道にこだわって走るマツちゃん&Wandaさんの姿が旧道にあった。気温は8℃まで下がっている。高鷲商工会館前(123. 7km)、何もないと思っていたらO川さんがエイドを開いて下さっていたのでコーンスープとお菓子を頂く。この先、旧道は右折するが、今回は国道を真っ直ぐに進んだ。マツちゃん&Wandaさんは旧道を、エイドで合流したT下さん、K合さんは私同様国道を進んだ。T下さん、K合さんは白鳥を過ぎてから先に行かれたのだが、いつの間にか私が前に行っていた。N村さんは「寝たい」と言ってO川さんの車で横になられた。

国道を進んですぐに吐いてしまい、またか、これはやばいと思った。まだ半分も来ていないだけに心配だ。この先、ダイナランドまでは自販機もない。とりあえず、頑張って蛭ヶ野を目指そう。旧道と国道合流点までもかなりの上りがあった。地図を見ると旧道はそれほど長くないようだ。猪洞橋で旧道と合流し、当分の間は急な上りが待っている。高鷲から蛭ヶ野までは10kmあまりで300m上っている。必死で歩いて上って行くとカーブの先に長い上りが見え、余計に辛く感じた。この先に旧道とバイパスの分かれ目があり、そのまま道なりにバイパスへ進んだ。ここからはそんなにアップダウンはない。夜中なので車は時たま走る程度だ。歩道の広いバイパスながら、眠いと車道の方が安全と思って、車道の端を歩いた。もうどうしようもないほどの眠気がきて、フラフラ状態だったので、頭上に橋のあるところで一休みする。7分ほど目を瞑って休んだ。頭上に橋があるので雨避けできた。

しばらく行くと急カーブのところに「ダイナランド」入口(129. 2km)があった。眠気防止に自販機で缶コーヒーを買う。この先、上りが続き、少し行くと急なヘアピンカーブに差し掛かった。ここをローリング族風の車がスピードを出して下って行ったが、眠たくなると怖く感じる。ロッジが右にあり、もうしばらく進むと道の駅「大日岳」がある。その先で左に行けば高鷲スノーパークだ。この辺りから両側の土手の雪が多くなり始めていた。ここからは長い下りが続き、下りは全て走れた。久々に走った気がした。「駒ヶ滝」が左手にあるが、ライトアップされていないので何も見えない。気温は例年より高く、7℃を示していた。この時はまだ寒くなかった。ウインドブレーカーは着ていなかった。ここからは急な上りになる。いつの間にか前のT下さんを捕らえていた。坂を上り切ると蛭ヶ野だ。

ひるがの分水嶺(134. 1km) 4月30日 4時22分

まず、道端の「分水嶺公園」に寄り、太平洋、日本海と刻まれた「石碑」を確認する。T下さんも寄られた。雪のためか太平洋、日本海の字がえらく汚れていたのが気になった。少し先のいつもN瀬さんが手抜きうどんエイドを出して下さっていたところに関家さんとK坂さんのエイドがあり、すでに先



着のマツちゃん&Wandaさんの姿があった。ここではK坂さんの「手抜きうどんもどき」を出して頂いた。コーヒーも頂く。先ほど吐いたことを言うと関家さんは「我慢すれば回復しますよ」とおっしゃられた。ガスター10とザッツを飲む。眠気もひどくなり始めた。蛭ヶ野高原は薄明るくなった中、あちこちに雪の山があり、豪雪の爪跡を感じる。T下さんと前後しながら、この先進んだ。先のタイムリーでホットレモンを買った。水だけでは駄目だと思い、飲みやすいレモンにした。



少し進むと高山市に変わった。今までは荘川村だったが、市町村合併で高山市に吸収されたようだ。気温は更に下がって5℃を示していた。

徐々に空は明るくなり、見通しも良くなっていた。しかし、少しガスっぽい。周りが雪だらけなので、吹く風も冷気を漂わせ、気温より体感度は低く感じたので、ウインドブレーカーを重ね着した。私は道路左側を、T下さんは右側を走られていた。牧戸までは下りなのでできる限り走ろうと思ったが、眠気がひどく路肩から下に落ちやしないかと冷や冷やしながら、土手の半分を覆っている残雪を見ながら進んだ。眠気はひどいが走るしかない。歩くのは危険だ。牧戸の「飛騨 INFO 荘川」で顔を洗い、長椅子で少し休んだ。K本さんに追い着かれたが、かなり消耗し切った姿だった。



JRバス牧戸バス停(143.5km)は6時19分に通過。牧戸の新鮮な空気を思い切り吸うと気持ち良い。道端に「ジュラ紀の化石群地」という石碑があった。今までも気になっていたが、この辺りは化石が出るところなのか？。山々はまだ少しガスで覆われていた。T下さんはやや遅れ始めていた。歩



き主体ながら、下りは走りことに専念した。もう眠気は消えていた。しかし、今年は車が多いので、気を付けないと。脇が狭い岩瀬橋途中で御母衣ダム湖の写真を撮る。神秘的だ。岩瀬トンネルの1号を越えた6時45分に枸杞さんから電話が掛かってきた。「今、荘川桜に向かっていますが、何時頃到着できますか」と聞かれ「7時頃になると思います」と話した。これは頑張らなくてはと思い、できる限り走ることにした。岩瀬トンネルは3号までであるが、歩道がなく、路肩が狭いので車が来れば立ち止まった。

間もなくドライブイン「みぼろ湖」が見えるとあと1km少しで荘川桜だ。アップダウンがあるが、枸杞さんに会えるかと思うと元気が出て、走り出せた。道路脇を見ると落ち葉の間からふきのとうがいっぱい顔を出していた。食べるにはひねていると思う。右に御母衣ダム建設によって沈んだ村の「水没記念碑」があり、神秘的な御母衣ダム湖が



少しガスを被りながら、大きなパノラマとなってきた。あと2つの橋を越えると荘川桜が右側に見える。いつも思うが、

急に目の前に現れる感じだ。荘川桜が見えた。残念ながら、まだ初期のつぼみ状態で開花は1週間以上先だろうと思う。写真を撮る。

荘川桜(149. 2km)

4月30日 7時03分



まだ早朝でもあり、満開でもないので駐車場の人は少なかった。しかし、露天商の方の姿はいくらかあった。ここはM川さんとO野さんがエイドを用意して下さっていた。カップラーメンとお菓子をご馳走になった。若干の風はあるが、ウインドブレーカーを脱ぐ。食べ終わった頃にマッチャン&Wandaさん、T下さんが到



着されたので出発する。出発してすぐにハンドタオルをエイドのテーブルに置いたままにしたことを思い出したが、戻るのが面倒だったので引き返さなかった。結果的にその後も大して汗は出なかった。走り出すと気温は6°Cで、やや風が冷たくて強いので体感温度は低く感じた。車の量は例年よりはるかに多く思える。尾神橋は歩道がないので、大きな車が来ると立ち止まった。風の通り道になる分、余計に怖く感じる。徐々に左足の脹ら脛や太股に疲労が開始、走るのは辛くなってきたが、辛抱する。

尾神橋を越えたシェルターのところで枸杞さんのランドクルーザーとすれ違った。一旦、Uターンして下さるようだ。その先の広い路肩のところで差し入れをいっぱい用意して下さっていた。椅子も出して頂いた。お言葉に甘えて、いなり寿司、コンソメ



スープ、ジュースをご馳走になった。もっといっぱい用意して下さっていて、申し訳なく思った。T下さんも寄られた。少しの間つろがせて貰った。富山から2時間半くらい要したそう。車内には娘さん2人の姿もあった。2年前にルネスでお会いしている。本当に嬉しかった。

山の斜面を見ると雪の重みで枝

が折れた木々の姿があった。何という惨状なんだ。言葉が出ない。豪雪の爪跡は雪渓を思わせるような姿になっていた。その頃、上を見ると猿が見下ろしていた。ここまでは降りては来られないと思うが、気持ち悪い。その先の1km以上ある福島保木トンネルは水がポトポト落ちて滑りそうになった。白川郷以降のトンネルと違って、右側車



道を走れるほど車量は少ない。次の福島第2トンネル手前からダム湖側が通れるので、そこを通過してダムの上に進んだ。ここには「御母衣ダム」と刻まれた石碑がある。ダムの上からダムの下側や平瀬集落を眺めると壮大なパノラマだった。そして、この先下って行く急坂がはっきりと見える。この横から福島第3トンネルに入る。

御母衣ダム(157.3km)

4月30日 8時39分



福島第3トンネルは路肩が狭く、荒れているので、最も危険なトンネルだ。車が多くなってきたので、ペースを上げて走った。トンネルを出ると長く急な下り坂が待っている。気温は12℃まで上がっていたが、空がどんよりしているため、むしろ肌寒い感じだ。いつ見てもロックフィル式の御母衣ダムは雄大だ。この景色の雄大さは何回見ても飽きない。石と粘土だけで積み上げてできたダムだけにコンクリートのダムと違って、庄川の大いにマッチした景観だと思う。平瀬に入るといつも落ち着くこの雰囲気が好きだ。ほのぼのとした光景といった方が良いかもしれない。先ず外れに国指定重要文化財「旧遠山家」がある。横には凄い雪の山があったが、旧遠山家民俗館とし



て一般公開されている。この遠山家は5階建てだそう。数人の観光客の姿もあった。深谷橋を過ぎたところで関家さんとK坂さんのエイドがあった。パンとコーラを頂いた。空は若干青空も見え始め、暑くなる予感がしてきた。白山登山口バス停を過ぎた後に右の旧道に入って行く。

平瀬T字路(162.2km)を過ぎたところにある「くろゆり荘」という温泉旅館前に足湯があったので、浸かることにした。今回は最初から穴の開いたソックスを履いたので、更に穴だらけになっていたが、幸いにもマメはでき



ておらず、すんなりと脱げた。そして、湯に浸かった。やや熱めではあったが、気持ち良く足の疲れが取れた気がした。さくら道の時はいつもエイドを出して下さっていた田口建設前を通過、足湯は他にもあった。その先で上り坂があり、新道と合流、それからは以前の道路のままだった。新平瀬トンネルは水漏れが激しく、歩道はぬかるみ状態。この先のトンネル群が心配になってきた。この先、白川郷までの12kmは自販機すらない。左足の脹ら脛、太股の違和感があったが、休んだこともあり、頑張っって走ることにした。道路脇には「帰雲城跡」の石碑があった。奇妙な感じのする碑だが、大地震で村ごと地中に埋もれた城で、

ある伝説では多大なる埋蔵金があるらしい。この辺りでロングタイツを脱いでランパンになった。

先に進み、したか橋を越えると間もなく野谷橋(170.3km)を渡る。10時44分通過。ここは白山を見るには絶好のスポットだが、まだ青空でなかったのと白山の雪量が多く、空と山の境目がはっきりしない写真となってしまったことが残念だ。ここから先も路肩は狭く、時間的に車の量は増すばかり。それも観光バスが例年に比べてやたら多い。この辺りからは緩い下りが続き、最後にやや急な下りに変わる。もう終わるかと思うとまだ下りが続くところだ。道端でリタイヤされたT田さんが休憩されていた。坂を下り切るところでY田さんとご主人のエイドがあった。Y田さんもリタイヤされていた。さくら道を7回ほど完走されている方がどうして何だろう。何かあったに違いない。カップそばと缶ビールを炎天下で頂く。この頃、道端で排ガスの影響もあってか、かなり暑くなっていた。T田さんにはスプレーを貸して貰って、両足に掛けた。そこに福光のO浦さんとM田さんが応援に駆けつけて下さり、久々の出会いに握手。有り難いことだ。M田さんは先週のネイチャーランを完走されたばかりだ。M田さんからは「ネイチャーランにどうして出ないの?」と聞かれた。そんな夢はあっても、実力はない。私の力をかなり過大評価されているみたいだ。M田さんは黒飴を数個下さった。エイドを後にし、橋を渡ると間もなく白川郷分岐になる。



白川郷分岐「合掌集落」(174.0km) 4月30日 11時37分

やや暑くなっているが、空はまだ青空とまではいかない。分岐で右に進み、「萩町合掌集落」に入って行く。観光客の姿がいつもより多く感じる。桜も満開だ。はるか向こうを仰いでも桜が咲いていた。合掌集落内を通り、「白川八幡宮」前を過ぎると観光客の姿は道いっぱいになっていた。今年の合掌集落は屋根の葺き替えされた合掌作



りの家が多く見られた。脇目も触れず、先に進む。あちこちに雪の山があり、一部水田の中は雪の山状態で、果たして代かきや田植えができるのかと百姓の老婆心で思ってしまう。あちこちの黒い山肌にピンクの桜は余計に栄える。国指定重要文化財の「和田家」の前も通り過ぎた。和田家辺りの水田には雪がないので、あるところだけに偏っているのは事情があるのだろう。白川橋まで来ると嘘のように人の姿が減る。タイムリーでタオルを買うが、ハンドタオルは置いておらず、普通サイズを買って、腰にぶら下げた。頑張っって走っていないので汗はほとんど出ない

状態が続いた。



この先、旧道に入ると満開の桜をたくさん見られた。軒先から出ている冷水で顔を洗い、足に掛けたら、左足の違和感はいぶ解消された。「飯島八幡神社」では安全祈願として両手を合わせて、通り過ぎた。右には道の駅「白川郷」があり、車がいっぱいだった。ここからは長いトンネルと防雪シェルターが続くが、日陰が多い分助かる。まず、最初の飯島トンネル(1873m)の歩道は足元が悪く、滑りやすかったので、歩き中心となった。トンネルを出ると防雪シェルターがあり、雪解け水が頭の上を流れて庄川の方に流れ落ちる大きな音がしていた。今年は特別大きな音に思えた。次の新内戸トンネル(1322m)の足元は思ったほど悪くなかったので、全て走り切った。

当然、車が来ない時が多いので右側車道中心である。この辺りの庄川沿いは「飛越峡合掌ライン」と呼ばれ、橋を渡る度に岐阜県、富山県が交互するところで、コバルトブルーの庄川を引き立てる名勝だ。

椿原橋(182.6km)を12時58分に通過。すぐに長い下りがあり、椿原集落の桜も綺麗だった。シェルターの先には赤い車と薄いブルーのジャケットが見えたので、てっきり関家さんのエイドと思い、頑張って走った。すると見晴らしの良いところで長浜のT口さんご夫婦がエイドを開いて下さっていた。どこで会えるかと思っていたら、ようやくお会いできた。



かっぱ巻き、パイナップル、コーラを頂く。朝8時半に長浜を出発されたとのこと。T口さんには「滋賀からも走るとるアホがひとりおるなあ〜と思った」と言われてしまった。正直な方だ。関家さん、K坂さんが到着されたので、飛越峡合掌ラインをバックに世界の関家さんと写真を撮って貰った。この頃は青空が見えて暑くなっていた。次の加須良トンネル(1038m)はほとんど乾いていたので、走りも歩きも楽だった。そして時たま、道路脇から出ている冷水で足を冷やした。



トンネルを出ると合掌大橋(187.4km)だ。ここからは手前で頑張ったツケが出て、走れなくなっていた。

飛越橋、成出橋、小白川橋、火の川原橋、楮橋と橋が続くが、もうグロッキー状態に陥っていた。気温は19℃を示しているが、ちょうど良いくらいの温度だった。M川さんが反対側歩道から、「道の駅のたんぼぼでおふたりが食事されていますよ」と言って下さったので、急いで道の駅を目指す。



14時25分に道の駅「上平ささら館」(191.8km)に到着。道路脇にリタイヤされたY原さんが居て下さったが、「たんぼぼで食事します」と言って、中に入る。「たんぼぼ」では先着のW穂井さん、T下さんが食事されていた。W穂井さんは朴葉みそ焼とビールを、T下さんはカレーライスを食べられていたので、私は五箇山豆腐丼を注文した。出てきたものは定食セットでこんなに食べられそうにない量があった。味覚感がなくなっているの、井とみそ汁で

十分だった。井内にわかめが入っていたので、過去戻した経験もあり、わかめは取り除いて食べた。冷や奴もあったが、味覚的に受け付けなかった。結果的に食べられたのは丼とみそ汁だけだったので、店の人は悪いと思って100円引きしてくれた。あとで考えると「丼とみそ汁だけ注文」と言えば良かったと反省している。食べた後で痛み止めイブAを飲む。たんぼぽを出てから、外で待機されていたY原さんに飲み物を頂いていると風が出始め、やや寒く感じるようになっていた。この頃、ポツリポツリ雨も落ち始めていた。

その先には歴史ある立派な山寺「行徳寺」、その右には国指定重要文化財「岩瀬家」がある。岩瀬家には今年も鯉のぼりが立ててあった。桜も満開だった。岩瀬家はいつ通っても人の出入りがあるように思えてならない。寒い



ような気がしたので道端でロングタイツを重ね着した。上は朝から長袖を着たままなので大丈夫だ。その先にある新屋橋は「民謡歩道」で4つの曲の中から自分の聞きたい民謡を選ぶと歩道上で聞くことができる。ここから先は



アップダウンが続くので、結構辛抱が必要だ。食べたばかりなので歩いて消化を促進させよう。道端の桜が満開で綺麗だ。しかし、枝が折れていたのが気になる。上りが続く青少年旅行村辺りでトイレに行きたくなり、道端の公衆トイレに入ろうとしたら、「水が出ないから」という理由で作業員の人にトイレを断られてしまった。



とりあえず辛抱することにした。左下の「青少年旅行村」を眺めるが、やや雨も強くなり、カメラを袋に入れたり、出したりしながら、撮影を繰り返す。庄川、桜、合掌集落のコントラストが最高だ。今年は満開の桜があるのが良い。この先の洞門は外側に歩道があるが、下はぬかるみ、雪解け水が大きな音を立てて落ちているので車道を通った。車が多いので歩きにくい。「越中五箇山菅沼合掌集落」でも残雪の固まりがあちこちにあった。雨模様なので傘を差されている。



旧上平村役場(196.8km)は市町村合併により南砺市となったため、「上平行政センター」に名前を変えていた。「さくら道、ご苦労さん」と前に集まられていた方に声を掛けて貰った。「くろば温泉」を過ぎ、小原ダム沿いに進むがこの辺りでまたグロッキーになり、当分歩くことにした。小原ダム横は間違っってトンネル内を通ってしまった。2、3軒お食事処があり、その先の小原橋にも「民謡歩道」があるが、ここは1曲だけしか鳴らない。



横には赤で「民謡の里」という大きな看板があった。この先は3年前にたんだいさんやM中さん、Y田さん達と走ったのを思い出した。どこも桜が満開だった。湯出島橋を渡ると観光地「こきりこの里」がある。雨は小降りながら、変わらず降り続いていた。

また便を催したので国指定重要文化財「村上家」横の公衆トイレに駆け込んだ。すると若干黒い血便になっていた。これからは日が暮れる方だから大丈夫だと思うが、心配だ。上梨トンネル(1040m)内は半分くらい走って、その後は歩きに変えて下梨に向かう。急に車が止まり、M田さんが桜餅を1個下さった。有り難い。ここからは走ったが、下梨までは短いようで長く感じる。K坂さんが出迎えに来て下さった。上を仰ぐとW穂井さんが五箇山への上りに入られていた。

下梨(203.7km)

4月29日 16時59分

下梨にやっと到着。関家さんとK坂さんのエイドだ。飴とお菓子、スポーツドリンクを頂いた。この先、さくら道は下梨交差点で左折して国道304号線を進むが、そのまま真っ直ぐに国道156号線を庄川沿いに進むとドラマなどで有名な「大牧温泉」がある。大牧温泉は船で渡らないと行けない秘湯だが、ここからは13kmくらいで行けるようだ。行ってみたい温泉だ。

これから梨谷トンネルまでの4kmは10%くらいの上りが続く。腕を振って必死で歩いて坂を上る。少し緩くなったり、きつくなったりの繰り返しになるが、もう終わるのかと思っていると、まだまだ先に続く上り坂で、頭の中のイメ



ージと現実がいつも噛み合わない。風もなく、気温も高めだが、暑いということはない。道端や山斜面には残雪がいっぱいあり、いつもの五箇山のイメージとは違う。曇っているので白山も見えない。今回で5回目なので位置関係はわかっているものの、頭上遙か彼方を通っている車が見えると意気消沈しそうになる。梨谷トンネル手前にある休憩所でT下さんに追いつくと「下梨から50分要した」と話されていた。梨谷トンネル(812m)は全て歩き、その先には断崖絶壁に掛かっている赤の欄干の梨谷大橋が見える。左に行けば五箇山スキー場だが、ここで半袖シャツ、ロングタイツの重ね着をして夜の準備。

脇に寄り過ぎると足を引っ張られそうになる梨谷大橋(2004年写真)を渡り終えると五箇山トンネル(3072m)



が待っている。トンネル入口(209.2km)は18時4分に通過。トンネル内は寒くなかった。右側車道を走り、車が来れば歩道に上がるを繰り返すが、最初1000mくらいは車がほとんど来なかったので思い切り車道を走れた。トンネル内は例年と変わらぬくらいの状態で足元がさほど悪いとは思わなかった。トンネルは23分ほどで通過できた。エイドは左側にあるとばかり思って、左側歩道に移動すると誰の姿もない。すると右側建物側にT口さんご夫婦のエイドが見え、安心する。自前のカレーライスをご馳走になる。奥さんは「家で作ってきた」とおっしゃっていた。雨は本降りエイドして下さる方々も大変だと思う。T下さんも到着。トンネル内は30分要したと言われていた。

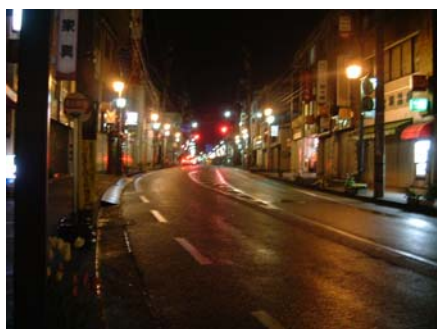
これからは長い下りが待っている。足の疲れもピークに達しており、思うように下って行けない。立ち止まっては走り、走っては立ち止まるを繰り返す。日暮れで雨模様、いつもと比べると下って来る車が少ないように思えた。間もなく下り切るところでW穂井さんが立ち止まられていた

ので抜かして行く。大鋸屋(217.6km)付近まではできる限り走ったが、その後は下り疲れて走れず、歩き出す。W穂井さんに追いつかれたので一緒に早足で歩く。W穂井さんの歩きは見事なまでに速い。城端の市街地に掛かった頃、道路拡張工事で雰囲気が大きく変わっていた。眠い。工事中の赤の点滅灯を見ると人が提灯を持っているように見えた。「日が暮れているが、祭りで提灯を持って何かを待っているのだろう」そんなことを思って近づくと単なる工事用点滅灯だった。幻覚だ！。城端の町は「越中の小京都」と呼ばれ、碁盤の目になっているが、暗闇の中でも歴史的な風情を感じさせてくれる町だ。「城端曳山祭」は歴史ある祭りで、あちこちで表示があった。途中で「善徳寺」という由緒あるお寺があるが、うっすら確認できた。そうだ、蔵田さんは城端の住人だった。

突き当たりを道なりに左にカーブすると城端橋があり、福光の方に進める。止まっている間にW穂井さんは前を進まれていたので、走って追いついた。車の数も減り、歩道は真っ暗だ。ファミリーマートがあったので、その先で城端から福光(221.5km)に変わるが、市町村合併で南砺市に変わり、表示は撤去されていた。10mほど前を進まれるW穂井さんの周りに人がいっぱい居る。しかし、時たま消えて、また現れる。またまた幻覚だ。幻覚と仲良くするのも良いだろう。先に進むと道路脇にさくら道ではいつもエイドを出して下さっていた「松島燃糸福光工場」があった。その先、歩道のない道路を進むと歩道が凹凸の道路に変わった。福光の走りにくい歩道だ。ここは走れない。道路の反対側をJR城端線が通っている。やや歩道が綺麗になって来ると「南砺市役所福光庁舎」が左に見える。この信号を左折し、「坂上松華堂」さんの前を通ると、坂上さんの姿が店頭にあった。「さくら道の時はいつもお世話になっていました」と言うので「誰ですか？」と聞かれたので「おおひらです」と応えて、福光橋に差し掛かった。

福光橋(225.6km)

4月30日 20時39分



福光の商店街に人気はなかった。ずっとW穂井さんの後を追う形で進んできた。商店街の外れに車が止まっていると思ったら、波多パパ&ママの車だった。2年振りの再会、嬉しかった。波多ママはさくら道になくてはならない五箇山の天女だった。パパは若々しくなれ、ママはスマートになれ、キュートな感じがした。何でこんなにさくら道は人恋しくなるのだろうか？。一旦別れ、その先の道を右に道なりに行くと急に暗くなった。道の駅はどこか、どこかと思っているとようやく道の駅「なんと一福茶屋」に到着。Y田さん、K本さんがエイドして下さっていた。素うどんと巻き寿司を頂く。地元のO浦さん、M田さんの姿もあった。O浦さんは自販機で飲み物を買って下さった。みんな何でこんなに優しいのだろうか。御礼を言って別れる。すでにW穂井さんは先に出発されていた。

21時を回り、田舎の家の生活は裏側ですので、表側の電灯を早く消す。だから、どうしても道端は暗闇と化する。右にある「華山温泉ホテル」はGWとあり、明々としていた。ここを過ぎると暗闇の世界が待っている。車からよく見えるように道端で反射するウインドブレーカーを着込む。この先、足元に気を付けながら必死で歩いた。周りは水田が多い。新蔵原トンネルの手前にある「川合田鉱泉」では、「それぞれのさくら道」のために施設内の桜をライトアップして下さっていたと後に掲示板で知った。確かにさくら道の頃もライトアップされていたと思う。新蔵原トンネル内は明るいので歩いて通過。2002さくら道、ここで幽霊かと思ったのが、先ほど会ったM田さんの足音だった。さくら道は出会いが多い。この先は行けども行けども先のない道を進んでいるようで、これでコースは間違っていないのか、大丈夫なのかと自問自答の繰り返しだった。

W穂井さんの姿は全く見えない。いろいろな物が人に見えることが度々あった。明るいところならまだしも、人影の全くない暗いところでの幻覚は場合によっては身体が固まりそうになる。必死で歩いて、歩いて進む。時々明るくなると自販機があるが、小雨の中、それほど喉は渇かなかった。もうバイパスだろうかと思っても、まだそれらしきものはない。やや明るくなって交差点らしきものがあったが、バイパスではなかった。ようやく赤の欄干の橋が見えて来た。ここだ。過去のさくら道では、この先で右に大きくカーブして旧道を県境に向かって行く。しかし、今年はバイパスができたので真っ直ぐにバイパスを進むことにした。ネイチャーランもバイパスだったと聞いている。このバイパスは上りがきつく、これなら旧道の方が楽に思えた。こちらの県境の方が標高は高いようだ。確かに道路はしっかりしているし、外灯もあったが、初めては何でも辛く感じるものだ。

富山・石川県境(235.6km)

4月30日 22時57分

県境表示を見ながら、そのまま進む。このバイパス一体どこに繋がっているのか、さっぱりわからない。上りは終わり、下って行くとW穂井さんが逆走されて来られた。「この先、道幅が狭くなっているのだから、間違ったのか、正しいのかわからなくなった」と話されたが、「このまま行けば大丈夫だと思いますよ」と言って一緒に先に進んだ。するといつの間にか、旧道に戻っていた。W穂井さんは「三滝のエイドがあった場所だ」と言われ、確かにそんな雰囲気がある。すると暗闇の中で波多パパとママがエイドを出して下さっていた。



嬉しいことだ。豚汁を頂いた。波多パパは「向こうに見えるのは廃校になった学校ですが、今は幽霊が出るとか」と言われていた。写真を撮って頂くと2人共眠っている状態だった。足が張って、歩きにくいと言うとW穂井さんが「ロキシニンを持っているので使ってみてわ。10分で効いて、眠くもない」と言われたので飲んでみる。ロキシニンは医者に貰う処方箋で薬局では売っていないそうだ。初めてなので何ともいえないが、そんなに良いと言われるなら、効くだろうと思って飲んでみた。

波多パパ&ママと別れ、その後はW穂井さんとずっと森本まで一緒に歩いた。ここからはぐねぐねとした長い下りが待ち構えている。本当に寂しい県境越えだ。W穂井さんと2人、沈黙状態で歩く。ようやく右側に東海北陸道が見えてきた。集落を過ぎると周りは山間の水田、また小さな集落、また山間の水田が繰り返され、ようやく古屋谷町(240.9km)に辿り着けた。いつも思うが夜中の県境から古屋谷町までの長さは尋常ではない。地図上ではこんなに長くないはずなのに、実際はもの凄く長く感じる。日付変更線は変わり、5月1日に入っていた。

ここからは森本まで歩道もあり、一直線だが、何の変化もない夜の道は辛過ぎる。W穂井さんから頂いて飲んだロキシニンだが、何の変化ももたらさない。結果的に効かなかったようだ。W穂井さんは「どこかでLEDライトを置き忘れた」と言って探しに戻られた。フラフラ歩いていると追い着かれ、「どこに置いたかわからない」と別のライトを出された。疲れと眠気でほとんど会話もなく、ただただフラフラしながら森本を目指す。時々、幻覚が出てきたが、大勢ではなく、ひとりふたりだけだった。小雨が続いていたがようやく雨も止んだ。

そのうち、生温い風が出てきて、気持ち悪くなってきた。フェーン現象の風だ。夜中に急にそんな風が吹き出すものか不思議に思えてならないが、それも仕方ない。この2日間、幸いにも昼にさほど気温が上がらなかったのも、ひどい脱水にもならなかったし、尿も催さなかった。汗が出なくなってからは尿に行く回数が多くなるが、それでも最近の超ウルトラでは際だって少ないと思う。そのうちかなりひどい眠気がやってきた。ほとんど半分寝ながら歩いている。何度かびっくりして目が覚めることがあった。途中で「さくら道270kmウルトラマラソン、ようこそ金沢へ」という垂れ幕が電柱に吊り下げられて応援してくれた。朝日屋という会社名があった。なかなか粋な計らいだ。



東海北陸道が右から左に変わらないと森本には近づけないが、まだ高架下を潜っていないので、森本はまだまだ先だ。W穂井さんと「遠いですね」と言いながら、とぼとぼ歩く。前にローソンが見えたが、そのまま直進する。すると東海北陸道の森本インターに行ってしまった。W穂井さんから「コースアウトしている」と言われ、地図と睨めっこする。確かに振り返って見ると高速高架下は通っていなかった。右側に折れて路地を横切ると正規のコースに戻れ、安堵する。地図をよく見るとローソンのところはY字路で右斜めにローソンの前を通らなくてはならなかったのを、左斜めに行ってしまったようだ。思考能力ゼロ状態でも言い訳は許されない。この先で交差点があり、コンビニがあった。ここを斜めに右折して、しばらく行くと市街地に入り、森本交差点(246.6km)に辿り着けた。1時45分だった。県境からの11kmに2時間48分も要したことになる。

ここからは左折して兼六園、そしてルネス金沢に向かう13kmあまりだ。W穂井さんは酒井さんのエイドはどの辺りと頻りに言われたが、私は眠気でグロッキー状態に陥っていた。東海北陸道高架下を潜ると酒井さんと妹さんのエイドがあった。椅子に座らせて頂いても何も食べる気がせず、自分のペットボトルの水を飲んでた。何か食べたいが食べられない、胃痛もある。ロキシニンが結果的に悪い影響を及ぼしたと思った。事実はどうかわからないが、過去このようなことはなかっただけに今回の極端な眠気は薬と考えたいという言い訳が自分の中にあった。一種の八つ当たりだった。恥ずかしいと思う。「休んで下さいよ」と声を掛けられても、もう前に進む気力を失い、ルネスに戻る決意をした。「ルネスの絨毯の上で大の字になって熟睡したい」という欲望がピークに達し、関家さんに止めるという連絡をした。関家さんは仮眠中で眠たそうな声で「もったいない。頑張れないんですか?。止められるならタクシーでも拾ってルネスに来て下さい」とそっけなく言われた。2時を回り、どうしようか迷いながらも止めると言ったし、自分の中で今の状態では止めるしかないと判断した。

酒井さんは「妹の家はすぐそこなので寝たらどうか」とおっしゃって下さったので、厚かましくも家に上がらせて頂き、下は座布団、上に布団を掛けて貰って寝た。エイドだけならともかく、家に上げて頂くことの迷惑を考えると気が引けてどうしようもない気持ちだ。それも汗臭いウェアのまま。それでも「気にしなくても良いから」とおっしゃって下さるのでご厚意に甘えさせて頂くことにした。熟睡に入ったのは2時20分頃だったと思う。それから1時間半経ち、4時前に目が覚めた時、家なのか、どこなのかさっぱりわからなかった。何故ここで寝ていたのかもわからなかった。我に返るとさくら道を走っていたのだと気付く。身体は驚くほど回復し、眠気も怠さも消えていた。多くの徹夜ウルトラを走ってきたが、今までは精々10分ほど目を瞑るだけで、1時間半も熟睡したのは初めてのことだ。寝ることによってこんなに回復するのかと初めて知ることができた。エイドに戻り、鱈寿司とお茶を頂き、「回復したので走りまわす」と酒井さんに告げる。関家さんにもリタイヤ取り下げの報告をすると喜んで下さった。酒井さんに写真を撮って頂いてから、兼六園を目指す。申し訳ない気持ちと恥ずかしい気持ちが同居しての出発だった。

強い自分と弱い自分が交差、葛藤して森本では弱い自分、自信のない自分が100%の状態に達していた。95%以上達成し、残り5%だというのにどうして今までの努力の全てを放棄しても、楽を求めたい、続けたくないという自分が出た。県境以降の辛さ、眠さが極限に達していたのだろう。自分自身が弱すぎる。しかし、改めて人間の身体の不思議さ、回復力を考えさせてくれた瞬間だった。

あと12kmだ、頑張ろう。足のむくみも取れ、軽くなったので、走ったり、歩いたりを繰り返す。地図を見ても兼六園まではそこそこ遠い。空も明るくなり始め、新聞配達のパイク音が走る。前には誰も見えない。金沢駅方面の看板が出ており、金沢駅の横ぐらいを通過する。鳴和、山の上を過ぎ、やや緩くカーブするところの先に橋が見えて来た。浅野川大橋だ。橋を渡ったところはなかなか風情がある。ここで集まられている早起き会のようなグループ



のお年寄りの姿があった。橋場で左斜めに進み、大手町西で右折、裁判所前で左折、兼六園下の信号で斜め右の兼六園内に進む。ここは上り坂だ。ここでウインドブレーカーを着た中年女性が拍手で迎えて下さった。地元の方だと思うのが嬉しい。坂を上ると桜並木があり、坂を下って行った一番奥に佐藤桜がある。

兼六園・1500本佐藤桜(253. 2km)

5月1日 5時11分



2年振りの佐藤桜との再会だった。1500本佐藤桜を眺めた時、森本でリタイヤせずに良かったとつくづく思った。「お前は佐藤桜に惚れてさくら道を走っているのではないか、たかが眠気くらいで止めようと思うな」と佐藤良二さんに言われているように思えてならなかった。先週、ネイチャーランを走られた方々はこの花道を通られ、佐藤桜でゴールされたんだなあ〜と思わずにはいられなかった。兼六園を下った広坂から、香林坊に向かうところでK坂さんの車が止まり、「お疲れ様」と声を掛けて下さった。ルネスで休んで下さっていただければ良いのに、申し訳ない気持ちだ。

前を見るとN村さん、N宮さんの姿があり、走って追い着いた。N村さん曰く「わし

はこの男をルネスまで運ぶ役目がある」とN宮さんに言われていた。むさしに行くとき真ん前にあったダイエーの看板はなくなっていた。むさし西から、二口町を目指す。JR高架下を潜った頃、N宮さんは「100mが1kmに思える」と話された。この気持ちは良くわかる。二口町交差点でも矢印が歩道に書かれていた。誰か書いて下さったのだ。ここからルネスまでは3kmほどだ。時々走る程度で、ほとんど歩きだった。コンビニでトイレ休憩し、一休み。北陸鉄道の踏切を越え、浅野川を渡ると間もなくルネスが見えて来た。パトロールランプが回転しているところがルネス金沢だ。3人で一緒に走り出し、入口を右折すると花道。N宮さんを中央にして、N村さんと3人でゴール。

ルネス金沢(259. 9km)

5月1日 6時27分

3年振りのゴールテープだった。わざわざ立派なゴールテープまで用意して下さっていて、3年前のさくら道ウルトラと何ら変わらなかった「それぞれのさくら道」だった。5年前も3人でゴールした。その時、一緒にゴールさせて貰えたY原さんは今回リタイヤされた。S藤親分は道の駅「なんと一福茶屋」でリタイヤされたようだが、呼び掛け人としてゴールで皆さんの出迎えをされていた。この辺りは偉いと思う。ゴール地点には関家さんのノートパソコンが置かれ、リアルタイムでゴールの様子が写真付きで掲示板にアップされていた。

ルネス金沢、24時間営業でゴールには最高のリゾート施設だ。これだけの場所をウルトラマラソンのゴールにできる大会は日本中探しても、なかなか見つからないと思う。3FのVIPルームに行くときに荷物を群馬のS藤さんが運んで下さっていた。S藤さんは腹痛ですぐに帰られたとのこと。もうすでに懇親会のテーブルは並び、いつでも宴会できるように準備されていた。ランパン、半袖シャツと身軽になり、荷物の整理をする。今までなら、気温が



高かったので、上昇した体温がなかなか下がらず、一旦横になり、身体を冷やしてから温泉に浸かったが、今年は全く大丈夫だった。1時間半の仮眠も効いたようだ。5年前は風呂に行くなり、絨毯上で目が回り、フラフラになった苦い思い出があるから、気が気でなかった。茶褐色の温泉に浸かって3日間頑張ってくれた身体を労らい、水風呂と交互に浸かり、アイシングも施した。8時過ぎ、入口でY崎さんのゴールを出迎える。

その後、1Fで朝食バイキングを腹一杯食べて、コーヒーを飲んで再び部屋に戻ると寝ている方がいた。私も9時に横になると、10時半まで熟睡してしまった。H野さんはH本さんと共に9時半にゴールされ、H本さんにとって2003年以来の喜びのゴールだったようだ。そのうち料理が並び始め、懇親会を待つ

ばかり。11時よりランナー、サポートして下さった方々、マッツちゃん&Wanda さんを含めた30名くらいで宴会が始まった。まず、巨人軍団のS籐親分から「海宝さんが止められてから、その意志を継いで自分がやっているが、再び海宝さんの呼び掛けでさくら道をやって欲しいという気持ちを込めてのそれぞれのさくら道なのです。ゴールされた方はもとより、リタイヤされた方もその地点がそれぞれのさくら道のゴール地点として、さくら道を楽しんで頂けた筈です。皆さん、お疲れ様でした」と挨拶があり、大きな拍手が起こった。ビールを飲み、料理を摘みながら、道中の話して盛り上がり、時間があっという間に経過する。その後、ランナー、サポーターひとりひとりがそれぞれのさくら道を振り返って、感想なり、思いなりを順番に話し、宴の場は更に盛り上がった。



世界の関家さんが「自分がここまで来られたのは全て、さくら道ウルトラマラソンがあったからです。だから、さくら道は僕にとって原点です」と話された。そして、テレビ出演をまとめられたDVD、ラジオ出演をまとめられたCDを下さった。日本ナンバーワンのウルトラランナー関家良一さんとうして話しができるのも、さくら道があつてのことだ。名古屋～金沢往復520kmを予定されていたW穂井さんだが「帰りは止める」と言って、懇親会の終盤間際に顔を出された。私には「ロキシニンが良いと渡して、悪いことをした」と謝って下さった。W穂井さんは何も悪くない。止めたい言い訳をW穂井さんから頂いたロキシニンの仕業にしたかった私が悪いのだ。弱いのだ。しかし、謝れて良かったと思った。最後はY原さんの一本締めで懇親会は終了。リタイヤされた方、早くにゴールされた方、48時間をオーバーしてゴールされた方、いろいろな形で「それぞれのさくら道」はこうして幕を閉じた。

私は13時20分のシャトルバスに乗らなければならなかった。懇親会が終わり次第、ルネス金沢を後にした。バスでルネスを去る時、ルネス金沢ゴールのさくら道は最高だと玄関を振り返った。金沢駅で30分ほど待って、13時57分の「サンダーバード」で京都に向かう。そこそこの乗車率だった。ルネスからずっと半袖Tシャツに半ズボン姿のままで帰った。武生辺りまでは熟睡していたが、その後ウトウトし、敦賀からは起きていた。左に琵琶湖を眺めなら、地元の風景を振り返った。京都には16時9分に到着、17時には家に帰れた。外来線車内で2日から萩往還250kmに参加のふきこさん、やまさんからのメールが届いた。受付を済ませたところだが、萩は暑いとのこと。京都も暑い。

それぞれのさくら道を終えて

さくら道を終え、GWは2日から7日までゆっくりできた。260kmも走りながら、こんなにダメージがなかったのは過去初めてだ。マメもできず、腫れもなく、脱力感もほとんどなかった。不思議なほど元気ですぐにでも走れる状態だったので、自分でも驚いている。やはり、日中の気温が上がらなかったことが幸いしたのだろう。4日から10kmほど走った。身体は楽でも走ってみると以外に苦しいことは多いが、今回はやはり楽だった。萩往還が2日スタートを切られ、参加のひろっさん、ふきこさん、やまさんの状況が気になって仕方なかった。

巨人軍団のそれぞれのさくら道、2003年で幕を閉じたさくら道ウルトラマラソンと何ら変わりなかった。参加者が少ないとか、エイドの規模とかの違いはあっても、さくら道はさくら道だし、さくら道はいつも温かく迎えてくれるさくら道だった。

今回、さくら道を走って初めて、「止める」決心を残り12km地点でしてしまったことが悔やまれた。仮眠させて頂いて、結果的にはゴールできたが、どうしてそんな状況になったのか反省しないといけな。2001年も2002年も同じような状況ではなかったのか？。2001年は這ってでもゴールしたいとの思いが強く、「リタイヤする、したい」なんて片隅にもなかった。しかし、今年100%止める気持ちになった。どうしてなんだ。根底にあるのはさくら道をなめていた、さくら道の苦しさ、辛さをあれほどよく知っているつもりなのに、ゴールできて当たり前と最初から思っ

横になって寝させて欲しいが、それはあまりにも厚かましいという気持ちが先立ったこともある。何が一番良かったのかと考えるとリタイヤという言葉を口にせず、眠くても辛くても苦しくても、純粋にさくら道を愛する気持ちだけがあるなら、前に進めた筈だ。そう思うと自分自身の弱さの暴露は情けない。反面、今回は徹夜大会に於ける「寝る」ということの重要さを初めて認識できた。眠たい時に1時間熟睡寝れば何時間も前の状態に身体は回復するということを教えられた。

道中では今までにない雪化粧を蛭ヶ野以降でたっぷり見せて貰えた。御母衣ダム付近では豪雪で折れた木々の痛ましい姿に心を痛めた。白山の積雪は例年と比べて多く、山肌は見えずに真っ白だった。白川郷や管沼合掌集落の茅葺きに満開の桜のコントラストは素晴らしかった。庄川村は高山市に、上平村、平村、城端町、福光町は南砺市に市町村合併で変わっていたが、白川村だけは村のままだった。遠山家、和田家、岩瀬家、村上家など合掌作りの山間の旧家を見ると心が落ち着く。難所五箇山はいつも苦しいが、五箇山あってのさくら道だと思う。

そして、多くの方々が少数のさくら道を守るランナーのためにサポート、応援をして下さったことに感謝の気持ちでいっぱい。あまりの善意にただただ頭が下がるだけ。それぞれのさくら道、サポートを最初から名乗り出て下さった多くの皆さん、更に自主的にエイドして下さったO川さん、酒井さんの妹さんに心から感謝申し上げたい。個人的にはわざわざ庄川桜まで差し入れ持参で応援に来て下さった枸杞さん、移動エイドを開いて下さり、応援して下さった波多パパ&ママ。福光のO浦さん、M田さんにも応援に来て頂いた。その他、応援して下さった見知らぬ方々にも感謝申し上げたい。佐藤良二さんの心は今もさくら道を通じてひとつであることを再度認識できた有意義な3日間だった。

さくら道呼び掛け人、酒井忠彬さんから貰ったメールに次のような文面があった。これはさくら道ウルトラマラソンの時に発行される文集のはじめにある文面です。

さくら道の原点は『さくら道を愛する人びと』

いつも暖かく迎える人、一緒に応援する人、走る人を励ます人、縁あって交流を続ける人、

志半ばで亡くなった人たち、元気活力を与える人貰う人、そして走り続けることが何より大好きなランナー、そのさくら道を愛する人々の「心」が励ましなが、固くひとつ結ばれていることです。

太平洋と日本海を桜でつなごう

限りない夢を託した

“さくら道”

この地球の上に

天の川のような

美しい花の星座をつくりたい

花を見る心が一つになって

人々が仲よくくらせるように

佐藤良二

さくら道で頂いた携帯応援メール

4月28日(金)19:45 Tさん

寝てるかも、起こしたかな？。

おはよー。お疲れ溜まってる、夜中は辛いから、くれぐれも気をつけてくださいね。

今年の夜明けは8度違いました。

存分に！おおひらさんが惚れたさくら道なモン、味わっててくださいね。

パパやママにも、ありがとう！って伝えてください。ホント素敵な、おちゃめでやんちゃなお2人です。

4月29日(土)11:46 KHさん

帰省していて昨夜帰宅しました。

この時期にさくら道を走れるなんて、羨ましい限りです。

お土産話を楽しみにしてま〜す！波多パパ&ママ、ホリさん、K村さんに宜しくお伝え下さい。

良い思い出いっぱい〜い作ってね(^_^)v

4月29日(土)16:57 Gさん

9時間が経過しましたねッ(^o^)^v♪

Wanda もいっしょでしょうか？(>_<)♪

遥かなるかなさくら道♪、みなさんが無事にルネスに辿り着くようにお祈りしています(^_^)^v

4月29日(土)18:22 Gさん

Wanda さん達はもっと前(>_<)♪

今、深戸駅手前でラーメン屋、82キロ付近(^_^)はやいですね♪(@_@)(^_^)^v♪

4月29日(土)18:28 Yさん

無事完走されることを祈ってま〜す。Wanda さんにもよろしく(^-^)/

私は萩の地図に奮闘中(^_^)

4月29日(土)18:54 KHさん

羨ましい〜！。私の熱〜い想いと一緒に、ルネスまで運んで下さいね。

宮城UMCの仲間、K合さんに宜しくね(^_^)

4月29日(土)20:41 FRさん

名古屋を何時スタートしましたか？今どの辺りだろうか？

4月29日(土)22:23 FKさん

調子はいかがでしょう？夜中、眠くなって怪我などないよう気をつけて下さいね。

今、送っていただいたビデオ見えます！おおひらさんが走っている姿を想像しながら。応援しています！

4月29日(土)23:15 Sさん

それぞれのさくら道、これからの夢と一緒に運ぶつもりで、でも気楽に目標点目指して下さいガンバ。

4月30日(日)00:56 Tさん

朝まで気を付けてね。昼間とはガラリと変わって冷え込んでくる時間ですね。

お疲れのある時の夜間走、気をつけて刻んで、楽しんで！

4月30日(日)07:11 Gさん

奥美濃の間を超え、24時間が経ちましたね！

おおひらさん みなさん共に、ご無事でさくらの旅の最中と思います。

昨年の最後尾はN田芳久さん、兼六園での遭遇がなつかしいです。

マイペースで金沢を目指し、おおひらさんのさくらの想いを運んでくださいね♪(^_^)^v

4月30日(日)11:20 FKさん
気温が高いでしょうか。水分補給をしっかりとしてくださいね。応援しています。ファイトです！

4月30日(日)11:50 Yさん
天気が良いですね。おおひらさんに言うのは恐れ多いですが、水分、塩分補給をこまめに！無理せんといってくださいね！。無事ゴール祈ってます！
目指セルネスの温泉 and ビール！(^o^)/

4月30日(日)20:09 FKさん
掲示板によると、そちらは雨がひどいようですね。気を付けて下さい。ファイトです！

4月30日(日)21:07 FRさん
雨の影響は？。今晚が一番辛い時だね、体をアイシングしてくれるから恵みの雨なんではないか？

4月30日(日)22:34 KKさん
今朝は お会い出来て嬉しかったです。
あの後 莊川桜を見て、分水嶺見て、戻ってきたのですが、もう一度お会いする事ができませんでした。
どこかで 追い越したみたいです。残念(・_・)
あともう少し！頑張っね

5月1日(月)07:25 KHさん
おめでとう(^)/。6時27分ゴール！お疲れ様でした m(_)_m
K合さんは6時57分ゴール！疲労困憊ですね。ゆっくり休んでから、皆と交流を深めて下さい。

5月1日(月)14:16 KKさん
良かったですね！。O浦さんもM田さんもきつと、会えて嬉しかったと思います。
さくら道は 最高！

5月1日(月)16:11 Yさん
ありがとうございます。夜中、大変だったんですね。
掲示板の速報で少し心配していました。お疲れさまでした。こちらは今、受付けを済ませました。
こちらはすごく暑いですが。明日から数日、どんな気温でしょうね。頑張っね。

5月2日(火)18:34 KHさん
ランナーもサポートする人も、生き生きし良い顔してたよ♪
「MYさくら道」計画してたけど、ゆのさん膝痛のため中止にしました。
「無理しても、行けば良かった」と後悔(>_<)
来年は絶対行きたい、イヤ行きます「さくら道」感動を共有しましょう！完走記楽しみにしています(*^_^*)
